

---

**東方幻歴抄** The Phantom of History

赤碕朧

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

東方幻歴抄 The Phantom of History

### 【Nコード】

N4125I

### 【作者名】

赤碕朧

### 【あらすじ】

それは、歴史に残らず、誰の記憶にすら残っていない一人の妖怪の物語……

## 第一章：気配（前書き）

あまりにも慣れていない社会人が書いたものなんで相違点は見逃してください？

楽しんでもらえたらいいかな

それではどうぞー！

## 第一章：気配

物事の始まりはいつも突然始まるものだ。

この物語も例外ではなくあまりにも唐突に始まった……。

その日、博霊霊夢はお茶を飲んでいた。

「さて、今日は何をしようかしら」

そう考えはじめると境内に異質な気配を感じた。

八雲紫やレミリアのようなものなら霊夢はスルーしただろうが、このとき感じた気配はそんなもの規模ではなかった。

なんともいえないようなとにかく異質な気配を感じたのだ。

霊夢は急いで飛びだし、気配があった場所に向かった。

## 第一章：気配（後書き）

「なんだこれは」

とか思ったと思いますがこれから時々更新したいです  
続きが出来たら読みなさい！！

## 第二章・出会い（前書き）

この話で主人公であるオリキャラは出てきませんが名前は秘密

## 第二章・出会い

「たしかこのあたりからだったわね・・・」

霊夢が異質な気配がした場所にたどり着くとそこには気配にふさわしいような異常な光景がひろがっていた。

「なに・・・これ・・・」

人が倒れていた。

背格好からして男性のようだ。

まだこれだけならわからなくもないがその周囲がおかしいのだ。

倒れている人の周囲を草木が覆い尽くし、今も成長し続けているのだ。

「ちょっと！！そのあなた！！大丈夫？」

霊夢が大声で呼び掛けると倒れている人が起きたようだ。

「ん……ここは……どこだ……?」

男性が起きると周囲で成長し続けていた草木の成長が止まった。

「僕はいつたいなにを……」

「あなた、何者なの?」

霊夢が少し警戒しながら聞く。

男性は少し思い出そうとしたが

「……わからない」

そう答えた。

「わからないって……」

霊夢は疑ったが男性の様子をみて本当のことを言っていると判断した。

「まあ、いいわ。こっちに来なさい。神社で話しましょう」

男性も頷き、霊夢と男性は博霊神社にむかって歩きだした。

## 第二章・出会い（後書き）

次でオリキャラの名前は出します。

### 第三章・導き（前書き）

この話で主人公の名前と能力がわかります。

### 第三章・導き

> 博霊神社 <

「それで何か思い出した？」

霊夢は男性にお茶を出しながら聞いた。

「そうですね・・・名前と能力くらいなら思い出しました。」

「それで？」

「名前は魁、能力は速度を操る程度の能力です」

「まあ、それはともかく・・・」

霊夢は自己紹介を軽く流すとため息をつきながら言った。

「なんであんなたちがいるのよ？」

霊夢が向いたほうには文と魔理沙が座っていた。

「いや、なんか博霊神社で植物が異常成長してるって聞いたもので」

「んで、わたしはおもしろそうだからついてきただけだぜ」

「えっと……こちらのかた達は？」

魁が霊夢に聞くと

「あつども、挨拶が遅れました。射命丸文です。」

「わたしは霧雨魔理沙だ。まあよろしくだぜ」

2人の挨拶がおわった所で霊夢は

「魁、あなた住む場所はどつするの？記憶がないなら家もわからないわよね？」

「そうですね・・・どうしましょう」

「わたしの家にくるか？」

魔理沙が聞いてきた。

「魔理沙の家は片付いてないでしょ。人がまともに暮らせるの？」

霊夢が呆れたようにいうと

「わたし自身が暮らしてるぜ？」

「魔理沙さんの家が片付いていないならそこにしたいです。ただ泊めてもらつより何かしたいですから。」

そんなこんなで魔理沙の家に泊まることになった。

「そういえば魁っていったか、お前飛べるのか？」

「なんとかなると思います。地面を蹴る瞬間に自分を加速させればそれに近いことはできますから。」

「ん〜、よくわかんないがじゃあ、行こうぜ。」

こうして魔理沙と一緒に魔理沙の家に向かった。

### 第三章：導き（後書き）

主人公の説明

名前：魁<sup>がい</sup>

能力：速度を操る程度の能力

加速・減速などを操る。触れたりする必要はない。

スペルカード

まだ不明

という感じですか。

### 第3・5章 魔理沙（前書き）

この話は移動中の会話です。

正直すつ飛ばしても読めますw

### 第3・5章 魔理沙

>魔法の森・上空<

魁と魔理沙は魔法の森を通り、アリスの家に向かっていった。

「魔理沙さん、アリスさんってどんな人なんですか？」

「アリスか？なんて言えばいいかわかんないぜ。しいていえば人形師てどこか」

（人形師？人形を作ってるのかな？）

魔理沙と話しているうちに森の中に家が見えてきた。

「話してるうちに着いたぜ」

どつやらアレがアリスの家のようだ。魔理沙と魁はその家に向かって降りていった。

### 第3・5章 魔理沙（後書き）

なんか魁が常時浮遊しているように感じる・・・  
一応ジャンプしてます。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4125i/>

---

東方幻歴抄 The Phantom of History

2010年10月14日13時38分発行